

日本共産党の山内よしこです。議員団を代表し、ただいま議題となっております議案 27 件全てに賛成するものですが、第 50 号議案について討論を行います。

第 50 号議案「令和元年度京都府一般会計補正予算（第 10 号）」は、年度末の最終補正であり、議案としては賛成するものですが、その内容に含まれている京都スタジアムの整備にかかわる部分には、見過ごすことのできない重大な問題があり、その点は反対です。

問題の第一は、スタジアムの整備のための寄付金が集まらなかったため、整備費の府債限度額を 25 億 6,000 万円から 43 億 700 万円へと 18 億円ちかくも増額したことです。本府は当初、スタジアムの建設に必要な金額を 156 億円とし、その財源を府債 73 億 8,000 万円、一般財源 24 億 6,000 万円、府民スポーツ振興基金から 5 億 6,000 万円、サッカーくじの toto から 30 億円、寄付金 20 億円としてきました。ところが寄付金をまともに集めることをしてこなかったために、わずか 1 億数千万円しか集まりませんでした。

そのため、建物は完成したものの、建設のための財源が足りない分は、府債を発行してなんとか乗り切ろうとしているのです。その結果、今後 30 年にわたり、増やした借金を返済するために、寄付金を集め続け返済し続けることとなります。それがかなわなければ府民の税金を新たに投入することになります。まさに建設のために財源の見通しもなく、しかも全く責任を取らず、借金だけ増やしたことになります。本府の責任は極めて重大です。

問題の第二は、「国際大会対応等環境整備費」として新たな工事が必要になったにも関わらず、新規の契約も行わず、5 億 8,000 万円の予算とその財源として 5 億 6,600 万円の府債の増額補正がおこなわれていることです。補正予算等で追加提案もせず、さらに主要事項等で府民にも議会にもまともな説明をしないまま、年度末の清算をするための補正予算に、新たな予算を潜り込ませたことは重大です。

理事者は常任委員会の答弁で、「今年の 3 月と 7 月に京都スタジアムで開催される国際試合のために、日本サッカー協会から指導を受けて新たに整備が必要となったため」と説明しました。しかし、当初から国際大会にも対応できるスタジアムを整備する、と説明してきたではありませんか！

そもそも、建設のための予算は、設計業者が当初 297 億 1,000 万円としてきたものを、156 億円と大幅に削減し、その後、あらたな整備の必要性が指摘されると、まともな説明も行わず、こけら落としや国際試合が迫りくる中、とにかく工事を完了させるため、市町の「スポーツ拠点施設充実費」や「アユモドキ生息環境保全対策費」などの予算を流用し、その穴埋めのために、府債を増額するというもので、やり方も内容も極めて問題です。

これら一連の事態は、わが党議員団が当初から指摘してきた、スタジアム建設ありきの本府の姿勢を如実に示したもので、怒りをもって厳しく抗議するものです。

以上で討論を終わります。ご清聴ありがとうございました。